

望ましい集団活動の活性化と自主的・実践的な態度を育てる特別活動の在り方

日上市立駒王中学校

1 はじめに

駒王中学校では、生徒が主体となって学校行事や様々な常置活動に取り組んでいる。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策をする中で、できることを模索しながら「千変万化～今日を役立て、明日を創造する～」をスローガンとして活動を行った。

2 資料

(1) 朝のあいさつ運動

毎週月曜日の朝、昇降口階段の前に立ち、あいさつ運動を行っている。今年度はコロナ感染症対策のため生徒会役員、新生徒会役員だけで実施をした。



(2) 合唱コンクール

今年度も、茜祭（文化祭）は実施できなかつたが、合唱コンクールはコロナ感染症対策を取りながら実施した。例年市民会館での実施だったが、今年度は会場を本校の体育館とし、座席の間隔を取り、学年ごとに入れ替えるなどの対策を講じた。会場に入れられない他学年のために Teams にて各教室にリモート配信を行った。開会式で流す諸注意やリーフレット、スローガン作成なども生徒会が主となり行った。



(3) 中央委員会・ルール検討会の実施

本校では、校則とは別に、生徒たちが自分たちの学校生活をよりよくしようという目的で、年度の終わりに生徒会、各学級会長、各委員会委員長が集まり「ルール検討会」を行っている。1・2年生は来年度の自分たちのために、3年生は後輩たちのために各クラスで積極的に話し合い活動を行い、中央委員会で集約し、全校生徒に確認している。



3 成果と課題

本校の取組として3つのことを紹介したが、生徒たちの自主性や自己有用感を高める上で、とても有効な取組であるといえる。

しかし、課題も多く残った。それは、活動時間の確保と生徒たちへの負担である。今年度は特に2学期に行事が集中したため、常に準備等に追われていた。そのため、なかなか学級会等で、話し合いをもつことが難しい現状があった。また、本校では1日1時間程度で中央委員会の活動を計画しているが、ルール検討の際には、連日の実施が不可欠となり、計画的な取組と、準備の面で教員側のサポートが重要になっている。